

平成30年度第2回まちづくり懇談会

1. 日 時：平成30年5月7日（月） 午後3時00分～午後4時00分
2. 場 所：市役所 9階第2応接室
3. 次 第
 - (1) 出席者自己紹介
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 団体紹介
 - (4) 懇談
 - (5) 集合写真
4. テーマ：非常時に備えある市

【議題】

- ①市民防災士は「地域防災の担い手」として如何に活用させ、その能力を發揮させるべきか
- ②船橋市内の自治会の防災組織率の向上に寄与したい
- ③総合防災訓練のモデル校における準備に寄与したい

●団体

災害はいつどこで起こるかわからないという状況の中、市民防災士の育成が平成28年から始まり、平成29年7月に、防災士の資格取得の支援を受けた第一期生が中心となって「船橋防災連絡会」を立ち上げました。メンバーは現在14名で、様々なボランティアの活動をしています。

平成30年度における活動方針は、1つめが、市職員と一緒に防災組織率を上げていくこと。2つめが、一般市民や災害にかかわる医療機関への防災対策を支援すること。3つめが、学校や自治会の皆さんと一緒に防災活動を支援していくことです。

また、防災は平常時と発災時が考えられますが、まずは平常時において、日本防災士会千葉県北部支部と一緒に、いざというときのための備えをしており、市民防災士として、船橋市内に特化して活動しようと意気込んでおります。本日はよろしく申し上げます。

○市長

今日はお越しいただきありがとうございます。市で市民防災士とSL（※）を育成する一番の目的は、各自治会に技能的にも知識的にもレベルの高い方を配置することで、地域の防災力を高め、市全体の防災力を底上げするためです。

市が防災や減災に注力することとなったきっかけは、都市型災害である阪神・淡路大震災です。また、記憶に新しい東日本大震災のように、全く想定していなかったケースの災害や、自然災害が多く発生する中で、高齢化が進む地域の防災力の担い手を、今後どのように広げていくかが大きな課題になっています。

その中で、平成28年度は9名、平成29年度は8名の方が防災士の資格を取得していただいたことは、非常に心強く思っています。

そして、自分達が住む地域に防災意識の高い方が配置されていったほうが良いということ、市全域で感じとることが第一歩かと思えます。

行政だけの防災対策は十分とは言えず、今、災害が起きたときにどうすべきか懸念されることも多いので、皆さんの様々なお考えをお聞きをしたいと思えます。

（※）SL…セーフティーリーダー。大規模災害に備えて地域防災に貢献するボランティア

●団体

市民防災士の補助金申請には、現在、町会長や自治会長の推薦が必要となっています。船橋防災連絡会や船橋SLネットワークの方は、それぞれ現場で防災に関する知見の高い方たちと多く出会っていることから、市で防災士の資格取得の支援をしていることを知らない方に対して、我々がお声をかけて推薦することができれば、応募数も増えると考えています。

○市長

船橋市には自治会が約800あります。皆さんからの推薦は、地域の方を確実に配置できるという意味では有効だと思えますが、市全体の防災力を均等に配置していきたいと考えているため、現在は、高い防災意識をもって頑張っ

いる方や、防災士の資格を取得すればリーダー的な役割となれる方を、町会長や自治会長から推薦してもらおうという形にしています。

●団体

行政に許可していただけるのであれば、我々も、行政が指導する枠内で積極的に自治会と防災士に関する話をしたいと考えています。

現在の制度は、町会や自治会1つにつき1人という規定になっており、町会や自治会から1人推薦されたら、他に希望する方がいても応募することができないということもあります。

○市長

確かに、地域の中で知識のある方が1人ということはあまり望ましくないとしますので、公募人数に達しないときに、町会長や自治会長からの推薦人数を2～3人程度まで認めるかどうかにつきましては、担当課と話をさせていただきます。

●団体

次の提案は、市内自治会の防災組織率の向上についてです。

船橋市の自主防災組織の結成率は全国平均より低く、結成率を上げることが市民防災士の責務であると考えています。具体的には、人口が密集している町会や自治会で重点的に結成すれば結成率は上がると考えるため、そのような未結成の町会や自治会に我々との協力を促していただければ、できる範囲でお手伝いしたいと思います。

○市長

船橋市の自主防災組織率は約60%で、大きな自治会は概ね結成していますが、マンションや少数世帯の町会などでは、高齢化も進んでいる地域もあり難しいのではないかと思います。皆さんの自主防災組織は、具体的にどのような活動をしていますか。

●団体

自治会で毎月や隔月に行う掃除や草取りに参加しそこで防災豆知識を伝え、防災についての関心を持ってもらうといった活動をしています。メンバーは自治会役員とは違い、毎年変わることはありませんから、いろいろなノウハウも蓄積できますし、地域住民に活動を知ってもらうことができます。

また、去年は、SLの方と一緒に「防災組織のつくり方と運営の仕方」という講義の講師を行ったり、北部支部と協力して、六町会（※）合同訓練を開催しました。このようなモデルとなる町会を手伝っていくことで、徐々に活動が浸透していくのではないかと考えています。

（※）六町会…三芝自治会、芝山6丁目町会、恵通苑町会、白鷺台町会、高郷町会、西習志野南町会

○市長

そうですね。防災組織をつくるにあたり、お手本があると非常にわかりやすいです。

地域の指導に当たられているとのお話がありましたが、船橋市では、総合防災訓練をそれぞれの地域でやっています。SLの方も、最初は地道にやっていたのですが、知識のある方がいることが徐々に他の町会にも浸透し、現在のように多くの町会や自治会に呼ばれるようになりました。

皆さんが防災士の資格を取ったきっかけについて教えていただけませんか。

●団体

私は、大きな地震が続く中、仕事の関係で学んだ防災の知識を、船橋に何か貢献できないかと考えていたところ、防災士の資格を知り、専門的な知識も身につくことから取得しました。

●団体

私は、東日本大震災です。皆さんにとっても未曾有の大災害は初めての経験だったと思いますが、そのとき何もできなかったため、次に災害が来たときに

看護師として何かできないかという思いから、防災に対する関心が高まったためです。

●団体

私は、十数年前に取っています。堤防工事やダム工事などのまちづくりに関する防災工事の仕事をやっていたので、技術的な知識もある事から参加しました。

●団体

私は、大地震が起きたら、自分自身や周りの人の不安に対する知識や知恵や知見はどうかということがあり、そういったノウハウを学べるものは何かないかということで、平成27年度に市民大学校へ電話したところ、来年防災士の資格が取れるとの話があり、平成28年に第一期として入学しました。

●団体

私は、重工業の会社に勤めていまして、阪神・淡路大震災を経験しています。船橋で同じような災害が起きたらどうなるのかということもあって、防災部会を立ち上げました。防災部会の会長として防災士の資格があれば、名実ともにリーダーシップを発揮でき、まさしく地域のリーダーとして一生懸命やれると考えました。

●団体

私は、御滝中学校を中心とした避難所運営協議会に参加する中で、当時の御滝町会の会長から推薦があり、体系的に取り組んでみようと資格を取りました。

当然、地域に対する還元をこれからもやっていきたいと考えています。

●団体

災害時に高齢者は色々な意味で重要になってくると思われることから、老人会の会長だったということで、町会長から推薦されました。

●団体

私は、船橋市の国際交流協会の災害外国人サポーターで、横須賀市へ宿泊訓練に行った際に、横須賀市の赤十字災害ボランティアの方に防災士という資格があることを教えてもらいました。（令和元年8月16日訂正）

○市長

ありがとうございます。防災士の資格の取得ももちろんですが、まず、皆さん同士が知り合ったことが、この制度の大きな成果だと感じています。知識や意識を持っている方が知り合い、交流してもらうことが、災害の時に「こっちは大丈夫？」「これは市のどこに言ったらいいの？」など、被災状況の確認などにも非常に役立つと思います。

市職員の防災士資格取得を10年で100人にする目標で始めましたが、既に70人を超えています。また、現在、地域防災計画も見直していますので、実効性のある計画にしていくためにも、色々ご意見を聞かせていただきたいと思っています。

●団体

内閣府男女共同参画局が出している「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」（※）の基本的な考え方として、平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となるとありまして、その中に、民間と行政の協働により男女共同参画を推進するとありますので、ぜひこちらも協力していきたいと思っています。

（※）内閣府男女共同参画局ホームページリンク

<http://www.gender.go.jp/policy/saigai/shishin/index.html>

○市長

わかりました。男女共同参画の一環として、避難所におけるLGBT（※）への配慮が新たな課題であると認識しており、災害時に、スフィア基準（※）で準備できるかは難しいですが、その視点を持つておく必要があります。LG

B Tの方の避難所対応についての課題は多く、皆様のご意見も聞かせていただきたいと思えます。

また、男女共同参画の問題は、「もう問題ない。大丈夫ではないか」という意識がありますが、実際はギャップが生まれてきていると感じています。

(※) L G B T…レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字をとった総称であり、性的少数者を指す。

(※) スフィア基準…避難所など支援の場における人道支援の国際基準

●団体

こうしてお会いいただき、私たちの意見も聞いていただいたので、また励みになります。

○市長

貴重なご意見をありがとうございました。

— 了 —